

1. 計画策定の経過

年月日	内容
令和5年 8月18日	第1回子ども・子育て会議(令和5年度) ・子ども・子育て支援事業計画策定に向けたアンケート調査の概要について
11月14日	第2回子ども・子育て会議(令和5年度) ・こども計画策定に向けた国の動向やスケジュールについて ・アンケート調査の詳細について
11月下旬 ～12月下旬	子どもの生活実態調査
令和6年 1月中旬 ～2月中旬	【未就学保護者対象】量の見込み等調査 【小学生低学年保護者対象】量の見込み等調査 【中高生対象】こども施策検討に関する調査
3月11日	第3回子ども・子育て会議(令和5年度) ・こども大綱を踏まえたこども計画の検討について ・アンケート調査結果(速報版)の報告
5月13日	第1回子ども・子育て会議(令和6年度) ・アンケート調査結果の分析・考察の報告 ・こども計画(骨子案)について ・計画策定に係るワークショップ及びヒアリング調査の内容について
7月22日	第1回青少年問題協議会(令和6年度) ・こども計画の策定及びこどもの居場所づくりについて
7月～8月	・ワークショップ(中学生2回、高校生2回、子育て当事者2回) ・ヒアリング調査(こども・子育て支援関係団体10団体)
8月 1日	第1回総合教育会議(令和6年度) ・こども計画の策定及びこどもの居場所づくりについて
8月 5日	第2回子ども・子育て会議(令和6年度) ・ワークショップ及びヒアリング調査結果(速報版)の報告 ・こども計画(骨子案)及び計画の構成について ・子ども・子育て支援事業計画の量の見込みと提供体制の確保について
11月12日	第3回子ども・子育て会議(令和6年度) ・こども計画(素案)について
12月20日～ 令和7年 1月20日	パブリックコメント
2月 4日	第4回子ども・子育て会議(令和6年度) ・こども計画(最終案)について



こども計画の
策定にあたって

こども・若者、子育て
当事者を取り巻く現況

こども計画の
基本的な考え方

本市の取組・
事業

全世代
共通

子育て
当事者

誕生前から
就学前まで

学童期・
思春期

青年期

計画の推進に
あたって

第3期四日市子ども・
子育て支援事業計画

参考資料

2. 四日市市子ども・子育て会議委員名簿

氏名	選出団体等	備考
伊藤 嘉泰	株式会社 中村組 執行役員 総務部長	
岩田 久二雄	四日市市立中学校長会	
上野 尚子	四日市市学童保育連絡協議会 事務局長	
小林 理華	北勢地域若者サポートステーション 所長・総括コーディネーター	
鈴木 恵介	四日市市PTA連絡協議会 副会長	
瀬戸 美奈子	三重大学 教育学部 教授	
高木 良明	エスペランス四日市 施設長	
高橋 雅紀	四日市市立小学校長会	
田中 宏明	NPO法人あったかコミュRみえ 副代表	
中川 祥子	スクールソーシャルワーカー	
中島 昭子	四日市市子ども会育成者連絡協議会 副会長	
生川 宗利	四日市市民生委員・児童委員協議会連合会 理事	
西村 太希	四日市市PTA連絡協議会 会長	
橋本 宗子	四日市市民生委員・児童委員協議会連合会 主任児童委員部会 部会長	
原田 千代子	四日市私立幼稚園・認定こども園協会	
福岡 由紀	四日市私立保育連盟	
藤川 聖菜	四日市大学 総合政策学部	
油田 千鳥	NPO法人四日市まんなかこどもステーション 理事長	
渡邊 顕一郎	日本福祉大学 教育・心理学部 教授	会長

(敬称略、五十音順) 令和6年10月末時点

3. アンケート調査の概要について

調査名	主な調査目的	調査対象者(サンプル数)	回収率
子どもの生活実態調査	こどもと保護者をめぐる生活の状況や支援ニーズについて、当事者自身に直接尋ねることで実態を把握する。	小学5年生、中学2年生の児童生徒とその保護者(5,111件)	93.1%
量の見込み等調査	子育て世帯の状況及び教育・保育、こども・子育て支援に関するサービスの利用状況及び今後の利用希望を把握し、計画を策定するための基礎資料とする。	0～5歳児の保護者(抽出3,500人)	68.6%
		小学1～3年生の保護者(7,286人)	57.8%
こども施策検討に関する調査	計画策定にあたって、こども・若者の意見を反映した施策を検討するため、意見聴取を行う。	中学3年生、高校2,3年生(6,548人)	16.5%

本調査結果については、市公式ホームページに掲載していますので、以下からご覧ください。

<https://www.city.yokkaichi.lg.jp/www/genre/1721701417645/index.html>



4. ワークショップの概要について

<ワークショップの内容>

参加者	テーマ
中学生	市長に実現してほしいこども・若者の政策 ・四日市市の好きなところ、不便・不安なところなどについて ・理想のまちのイメージについて ・理想の実現に必要な取組、市に実施してほしいことなどについて
高校生	
子育て当事者 (未就学保護者)	共働き・子育てに必要な支援策 ・四日市市の子育て環境の好きなところ、不便・不満なところなどについて ・理想のまちのイメージについて ・理想の実現に必要な取組、市に実施してほしいことなどについて

<ワークショップの意見>

ワークショップで出された主な意見は以下のとおりです。

表の右欄の●は、中は中学生、高は高校生、子は子育て当事者のワークショップで出された意見であることを示しています。

◆子育て支援

意見	中	高	子
親が病気の際に、こどもの面倒を見てくれるサービスがほしい	●	●	●
図書館の規模を大きくし、読み聞かせなどサービスを充実する	●	●	●



意見	中	高	子
働きやすいように、日曜保育や一時保育など、預かり支援を充実してほしい	●	●	●
少子化対策として、こどもへの支援制度を充実してほしい	●		
こどもを持つ親が交流できる場所をつくる		●	
親への支援を充実し、親がゆとりをもって子育てできるようにする			●
こどもの年齢や親の収入に左右されない平等な支援をしてほしい			●
こどもが医療を受けやすい環境を整備してほしい			●
保育園などに入れるよう、地域のニーズを把握し、保育サービスを充実してほしい			●
送迎支援ステーションを整備してほしい			●
保育士を確保するためにも、賃金を上げるなど待遇を改善してほしい			●
補助金を充実させてほしい(育休中の会社・保育園・学校・学童保育所・特別支援など)			●
自治会やPTAの活動を縮小して負担を軽減してほしい			●
地域全体で子育て世帯を優しく見守ってほしい			●
男性が育児しやすくなり、よかリパパが増えてほしい			●
子育てについて頼れる場所が必要と感じる			●
少子化対策として、奨学金の一部・全額返済を免除する			●

◆こどもの権利

意見	中	高	子
こどもが意見を言える場をつくる(こどもの模擬議会、スマホを使ったアンケートなど)	●		●
「高校生のくせに」と言って、高校生を悪者にしないでほしい		●	
こどもの権利を学べる機会を増やし、こどもの権利を大切にできるまちにしてほしい			●
子育て支援を行っている企業を支援してほしい(時短勤務、テレワーク、フレックスタイム制、休暇)			●
こどもを連れていくことが後ろめたくないように、こどもに優しい人が増えるとよい			●



◆学校教育

意見	中	高	子
他県の高校生たちに負けないように、学習環境を整え、オンライン学習のような、学びやすいような環境が整っているまちにしてほしい	●	●	●
小学生に比べて中学生以上が体験できる機会が少ない。職業体験やインターンシップの充実など経験値を高められるようなまちにしてほしい	●	●	
海外との交換留学を積極的に受け入れるなど、留学支援をしてほしい	●	●	
制服の種類を増やしてほしい	●		
学校の設備を整備してほしい(空調、古くて危ない場所)	●		
学習施設や学べる場所が多いまちにしてほしい	●		
お金についての授業をしてほしい	●		
大学や高校を紹介してほしい	●		
専門的な学校を増やしてほしい(工業高校、商業高校など)		●	
小学校の給食費を無償化してほしい			●

◆こどもの居場所づくり

意見	中	高	子
学生が勉強できる自習室や自由に使えるスペースがほしい	●	●	
学童保育所や児童館をもっとつakって、こどもたちの居場所を設けてほしい	●	●	
こども食堂を充実させてほしい	●		
中学生が遊べる場所、行きやすい場所がほしい	●		
夏休みの学童保育に給食を出してほしい			●

◆まちづくり・地域活動

意見	中	高	子
広い公園や遊べる施設がほしい	●	●	●
天気に関係なく、こどもが安心して遊べるように、室内施設がほしい	●	●	●
施設や交通機関で、高校生まで使える割引が多くあるとよい	●	●	
駅周辺や商店街、市民公園など、治安が良くなってほしい	●	●	



意見	中	高	子
小さい水族館をつくってほしい	●	●	
保護者の理解や技術ある指導者の下で、スポーツや全国大会などができるまちにしてほしい	●	●	
夜景を見やすくするなど、観光しやすいように整備する	●		
スポーツ施設や公園を増やしてほしい(スケボー、バスケットボール、サッカー、野球、その他運動コース)	●		
まちに緑がいっぱいあるとよい	●		
駅に誰でも使える傘を置く	●		

◆交流・イベント

意見	中	高	子
世代を超えて、たくさんの人と交流できるようになるとよい(イベントの開催、施設の充実)	●	●	●
ワークショップを開催して、まちづくりについて考える機会をつくり、当事者意識を高める機会をつくってほしい	●	●	●
自然を守り、イベントや体験施設など、自然に親しめる場や機会をつくってほしい	●	●	
地域の人たちと交流し、互いに声を掛けあえるまちにしてほしい	●		●
こどもが自主的に行動できるイベントを増やしてほしい	●		●
地域のお楽しみ会を日曜日に開催してほしい	●		●
地域のイベントや行事を拡充してほしい	●		●
こども同士が学校を超えて、交流できる機会が増えるとよい	●		
様々なイベントや祭りを開催して、広く周知してほしい	●		
一緒にゲームができるイベントを開催してほしい	●		
地域の人たちに、救命講習を行いたい	●		
世代を超えて一緒に何か大きなプロジェクト等に取り組み、一緒にまちを発展させていく活動を行いたい		●	
防犯イベントを開催してほしい		●	
大人の意識を改革し、乳幼児期からいろいろな体験・経験できる機会を充実させてほしい			●



◆シティプロモーション

意見	中	高	子
高校生観光大使を設けるなど、若者がPRに関わる機会を設け、活気や元気を発信できるとよい	●	●	
有名人やインフルエンサーに協力してもらい、SNSを利用して市をPRする	●	●	
名物になる食べ物など、特産品が増えてほしい	●	●	
こども計画を象徴するもの(絵など)を、みんなで作って、近鉄四日市駅に飾る。また、近鉄四日市駅のリニューアルを市外の人にも周知する	●		

◆交通

意見	中	高	子
交通機関の充実や料金の値下げを行い、移動が便利になるとよい	●	●	
安全できれいな道路に整備してほしい(歩道の拡張、段差、横断歩道、自転車道、街路樹の整備など)	●	●	
駅に自転車を停めるところを増やしてほしい	●		
渋滞を減らしてほしい		●	
電動キックボードを誰でも使えるようにしてほしい		●	
駅のホームに柵がほしい		●	
歩行者に優しいまち(特にこども)、車はゆっくり走ってほしい			●

◆企業支援

意見	中	高	子
行きたいと思える店が少ない。店舗が増え、活気あるまちになるとよい	●	●	
商店街がきれいで明るくなり、こども食堂や保育園、文房具店など、こどもに関係する店舗などが増えるとよい	●		
働きやすく、長く雇用してもらえらる会社が多くあるとよい		●	
託児所(スペース)付オフィスの整備をしてほしい			●

◆環境

意見	中	高	子
公害のイメージをなくして、プラスのイメージがほしい	●	●	
車を使わず、バスや電車を使うなど環境に配慮する	●		



意見	中	高	子
ポイ捨てが多いので、ごみ拾いのイベントを開催するなど、ごみのない清潔なまちになるとよい		●	
海をきれいにし、ビーチをつくるなど夏に楽しめるようにしてほしい		●	

◆行政

意見	中	高	子
税収を増やす	●		●
こども関連の予算が多くなるとよい	●		
フリーWi-Fiを安定して使えるようにしてほしい		●	
申請などの手続きや回覧板などにITを活用してほしい			●

◆理想のまちのイメージ

意見	中	高	子
安心して子育てしやすいまちにしてほしい	●	●	●
みんなが住みやすいまちにしてほしい	●	●	●
こどもから大人まで、楽しく過ごせるまちにほしい	●	●	●
こどもが大人になっても、住みたいと思えるまちにほしい	●	●	●
みんながお互いに認め合い、ありのままに笑って暮らせる、多様性のあるまちにほしい(英語標識、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、外国籍住民との交流)	●	●	●
三重県を代表するような、他市に負けない四日市にほしい	●	●	
遊ぶところが充実していて、市外から遊びに来たいと思ってもらえるまちにほしい	●	●	
話題になるようなスポットがあり、市外から観光に来てもらえるまちにほしい	●	●	
今ある伝統を残し、発展させられるまちにほしい	●	●	
保護者もこどもも幸せを感じられるまちにほしい	●		●
若者が輝けるまちにほしい	●		●
環境と産業が両立し、基盤がしっかりとした豊かなまちにほしい	●		●
何でもチャレンジできる場所や機会があるまちにほしい	●		
サステナブルなまちになってほしい	●		
市民が誇れるまちにほしい		●	



5. ヒアリング調査の概要について

<ヒアリング調査の方法>

調査にあたっては、調査団体等に対し、事前にヒアリングシートを送付し、以下の質問にお答えいただいた上で、対面にて、その回答内容について、詳細を尋ねました。

<ヒアリング調査の内容>

- ・団体等の活動内容をお聞かせください。
 - ・団体等として、うまくいっていることや課題をお聞かせください。
 - ・こども・子育てを取り巻く状況や課題をお聞かせください。
- ※これ以降の質問は、本計画の「こども・若者施策の重要事項」の中で、調査団体等が特に関わりの深い事業に特化して尋ねました。
- ・こどもまんなか四日市としての評価をお聞かせください。
 - ・こどもまんなか四日市の実現に向けて、団体等が考える理想の姿をお聞かせください。
 - ・団体等としての、今後の展望をお聞かせください。
 - ・その展望を実現するため、こどもまんなか四日市の実現に向けて、市として取り組むべき施策・事業等のアイデア、連携・協働のイメージをご教示ください。

<ヒアリング調査の意見(抜粋)>

◆子育て支援

- 子育て支援センターや児童館を地域ごとに設けてほしい
- 土日でも開かれた子育て支援の場があるとよい
- こどもの支援を行う施設については、おむつ替えがしやすいように整備してほしい
- こどもが大切だという認識が、社会全体に広まるとよい
- 災害時のこどもや保護者、妊産婦への対応を充実させてほしい
- きょうだいと同じ保育園に通えるようにしてほしい
- きょうだいを保育園に入れるため、保育ポイントの加算を実施してほしい
- 第2子以降に、保育料が半額になる制度を復活させてほしい
- 保護者同士の交流や地域社会とのつながりが、子育てにとって重要だと感じる。保護者が複数のつながりを持てるようになるとよい
- ファミリー・サポートでは、支援できる範囲に限りがあるため、ソーシャルワーカーを設置するなど、家庭生活をフォローできる体制があるとよい
- 各種申請や更新手続きなどの電子化をしてほしい
- 支援充実のために、多職種なサービスのネットワークづくりが必要と感じる



◆男性の子育て参加

- 父親同士の交流は、母親同士に比べると少ないと感じる
- 父親を対象にした相談や指導などを増やし、男性が育児に参加しやすい環境づくりをしてほしい
- 男子中高生が乳幼児と関わる機会や、高齢男性が子育て経験を後世に共有できる機会などがあるとうい

◆障害者支援

- 医療的ケア区分を見直すなど、医療の進歩に応じて柔軟な支援を実現してほしい
- ショートステイを利用できる日数の制限を見直してほしい
- 災害時の電力確保や薬の事前準備など、緊急時の個別支援計画作成に行政の支援があると助かる
- 医療的ケア児の状況を、地域の人たちに知ってもらいたい
- 医療的ケア児が施設への入場を拒否されないよう、社会的意識を高めてほしい
- 医療的ケア児への支援として、家族への支援を充実させてほしい
- 18歳以上の障害者に対する、切れ目のない支援を実現してほしい
- 医療的ケア児や重度心身障害児のために、大人用の介護ベッドを備えたトイレを整備してほしい
- 障害者も利用しやすいように、市役所の設備や関係課の配置を見直してほしい
- 医療的ケア児の送迎サービスを実施してほしい
- 医療的ケア児が社会参加できる機会を創出してほしい
- インクルーシブ公園の設置やバリアフリー対応の室内遊び場がほしい
- 発達障害を持つ人の雇用を確保するために、事業者への支援が必要である

◆学校教育

- 外国にルーツをもつ子どもへの対応について、行政にも協力してほしいときがある
- 教員を補助する人の配置や、校内カフェのように民間事業者が学校に出入りできるとよい
- いじめ対策は被害者救済も大切だが、加害者に焦点を当て行動の背景などを明確化することも重要と感じる
- 読み書きが苦手な子どもを補助する器具の貸し出しや授業のサポートができる、リソースセンターのようなところがほしい
- 学校卒業後に支援が途切れることがないよう、切れ目のない支援を充実させてほしい
- 児童精神科の充実や、市内の小児科医に対してスキルアップ支援などを行ってほしい
- 不登校の子どもがひきこもりにならないように、外出しやすい環境づくりが必要と感じる



◆こどもの権利

- こどもに対して権利に関する教育や、実生活に必要な情報や情報リテラシーなどの教育が必要と感じる
- 保護者に対するこどもの権利教育などを、こどもが幼いうちに実施するとよい
- こどもの意見を聴き、参加できるような仕組みをつくり、こどもが参加できる社会を目指してほしい
- 施策や条例などを定める際には、こどもの権利を保障する文言を入れてほしい

◆最近のこども・若者の傾向

- 主だった理由がない場合や、ささいな理由で不登校になるこどもが増えている
- 幼少期から集団行動を余儀なくされるため、周囲の評価を気にするこどもが多い
- 発達障害のこどもが増えているように感じる。周囲の理解と対応が必要に感じる
- 失敗経験が少なく自己肯定感の低いこどもや若者が増えている。様々な体験機会の提供やサポート体制が必要と感じる

◆こどもの居場所

- こどもが遠慮なく遊べる場所があるとよい
- こどもが家庭で生活できる時間が増えるよう、企業に働きかけて保護者が早く帰宅できるとよい
- こどもが保護者以外の大人と関わる場所があるとよい
- こどもの学習支援は、生活保護受給世帯しか利用できない状況にあるため、利用条件を緩和してほしい
- こどもの居場所づくりを兼ねた学習支援ができるとよい
- 小学生に比べて中高生の居場所が少ないため、中高生が気軽に利用できる居場所があるとよい
- 飲食店の「こどもの居場所」への参加促進モデル事業のような取組が、常習的に行われるとよい
- こどもの居場所に偏りがあるため、複数の居場所を持てるようになるとうい

◆生活困窮家庭への支援

- 生活困窮家庭のこどもが訪れやすい支援場所があるとよい
- 二人親の生活困窮家庭に対しても支援の充実が必要と感じる
- 一人ひとりの置かれている状況が異なるため、個別に支援できるようになるとよい
- 生活困窮家庭への支援の方法は、別の用途に使わないように工夫が必要である
- 困窮が深刻化する前に相談できる環境があるとよい



◆社会的養護

- 社会的養護を必要とするこどもの存在を広く周知し、社会に出た後も地域社会でこどもを支えられるようになること
- 養護施設に入所しているこどもが、親権者の同意なく精神科の受診や服薬できるよう柔軟な制度が必要と感じる
- 社会的養護を必要とするこどもや、里親制度に対する偏見や差別を解消するために、人権教育に力を入れる必要がある
- 養護施設が使える、市独自の小規模な修繕補助制度があるとよい

◆課題を抱える家庭への支援・ヤングケアラーへの支援

- 保護者への支援(病児保育、ショートステイ、夜間保育、一時保護など)の充実は、ネグレクトや虐待の回避につながると思う
- ヤングケアラーやネグレクトは、当事者が自覚していない場合や、保護者が口止めしている場合があり、外部から気づきにくい
- ヤングケアラーやネグレクトの事例に対して、学校が把握・対応しているのか外部からはわからない
- 保護者が支援を拒否しないように、気を付けて対応する必要がある

◆子育て支援団体等が抱える課題

- 人員不足や予算不足のため、アウトリーチ支援が十分にできない
- 支援活動の担い手や事業所を増やすとともに、継続できるような行政の支援が必要である
- こどもに関わる人たちの待遇を保障し、辞めにくい環境をつくる必要がある
- 一つの団体だけでは支援の手が届かないこともあるため、垣根を越えた連携ができるようになること

◆体験機会

- 体験格差が広がっているため、所得に関わらずこどもたちの体験機会が増えるとよい
- 働くことに悩みを抱える若者が、希望する業務を体験できるよう、市役所等と協力して機会を用意できるとよい

◆若者への支援

- 同じ価値観を持つ者同士のサークルなどが構成できると、若者の結婚促進につながると思う



6. 用語集

あ行

●アイデンティティ

自己同一性、つまり自分は自分であると自覚することや主体性、独自性のこと。

●アウトリーチ

手を差しのべること。

福祉分野では、援助が必要であるにも関わらず、自発的に申し出をしない人々に対して、公的機関などが積極的に働きかけて支援の実現を目指すことをいう。

●アセスメント

評価、査定のこと。

福祉分野では、利用者の生活環境や困りごとを把握、情報収集し、分析することをいう。

●アセットマネジメント

公共施設の維持管理や補修などを効率的に行う技術体系(ストックマネジメント)に加え、施設の集約化・拠点化や統廃合、維持管理費用や運営形態の見直しによる公共施設全体の運営の最適化と財政負担の低減・平準化に取り組む管理手法のこと。

●医療的ケア児

医学の進歩を背景として、NICU (Neonatal Intensive Care Unitの略。新生児集中治療管理室)等に長期入院した後、引き続き人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが日常的に必要な児童のこと。

●インクルージョン

障害の有無や国籍、年齢、性別など、様々な背景を持つあらゆる人が排除されないこと。

●インターンシップ

学生が企業や団体で職場の実践を経験し、キャリア形成を支援する取組のこと。

●ウェルビーイング

身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態のこと。

か行

●キャリアカウンセラー

相談者との対話を通して、個人にとって望ましいキャリアの選択・開発を支援するキャリア形成の専門家のこと。

●キャリアカウンセリング

個人に合った職業やキャリアを一緒に考え、キャリア形成や再就職を支援すること。

●合計特殊出生率

1人の女性が一生の間に産むこどもの数を示すもので、15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計することで算出される。

●こども家庭センター

妊産婦やこども、子育て世帯を対象に、母子保健と児童福祉などの多方面から継続して一体的な支援を行う機関。

支援メニューの体系的なマネジメントを行う「サポートプラン」を作成して、適切な支援を提供する。

●コミュニティスクール

保護者・地域住民の代表が学校づくりに主体的に参画する「地域とともにある学校」の実現を目指す仕組みのこと。

●コンプライアンス

法令遵守のこと。企業や個人が法令や社会的ルールを守ることをいう。

さ行

●3R活動

Reduce (リデュース(発生抑制))、Reuse (リユース(再使用))、Recycle (リサイクル(再資源化))を指す。リデュースは、ごみになるものを買わない・もらわない、長く使える製品を買うなど、ごみの発生、資源の消費を元から減らすこと。リユースは、リターナブル容器のように再使用できるものを選ぶ、リサイクルショップを利用するなど、使えるものを繰り返し使うこと。リサイクルは、新聞紙、ペットボトル、空き缶などを分別して集めるなど、ごみを資源として再び利用すること。

●社会的養護

保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童を、公的責任で社会的に養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うこと。



●ジェンダー

社会的・文化的に形成された性別のこと。社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的・文化的に形成された性別」(ジェンダー／gender)という。

●シビックプライド

地域への誇りと愛着のこと。

●スクールカウンセラー

教育機関において、心理相談業務に従事する臨床心理学やカウンセリング理論を身に付けた専門家のこと。

●スクールソーシャルワーカー

こどもの家庭環境による問題に対処するため、児童相談所と連携したり、教員を支援したりする福祉の専門家のこと。

●スクールロイヤー

学校で起こるいじめや保護者とのトラブル等を法的に解決する弁護士のこと。

●セーフティネット

人々に安全や安心を提供するための仕組み、社会保障のこと。

●総合型地域スポーツクラブ

人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、こどもから高齢者まで(多世代)、様々なスポーツを愛好する人々が(多種目)、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる(多志向)、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブのこと。

た行

●待機児童

保育所入所申し込みがあり、かつ、入所要件に該当しているものであるが、現に保育所に入所できない(他に入所可能な保育所があるにも関わらず入所しない場合を除く。)状態のこどものこと。

●地域型保育事業所

子ども・子育て支援新制度で、市町村による認可事業として、「児童福祉法」に位置づけられており、小規模保育所(認可定員6～19人)、家庭的保育所(認可定員5人以下)、居宅訪問型保育所、事業所内保育所がある。

●デジタル・シティズンシップ教育

デジタル技術の利用を通じて、社会に積極的に関与し、参加する能力を身に付けることを目的とした教育のこと。

●等価世帯収入

世帯の年間収入を世帯の人数の平方根で割ったものの。等価世帯収入の個人単位の中央値の50%が「貧困線」となり、「貧困線」未満の人を「貧困(相対的貧困)」と定義される。

な行

●認可外保育施設

「児童福祉法」に基づく認可を受けていない保育施設のこと。その設置には「児童福祉法」に基づき都道府県知事への届出が必要となる。

●認定こども園

教育・保育を一体的に行う施設で、幼稚園と保育所の両方の良さと役割を併せ持っている施設のこと。

●ネットモラル

情報モラルともいう。情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度のこと。

は行

●非認知能力

意欲や向上心、やり抜く力や自制心、協調性やコミュニケーション能力など、学びに向かう力や人間性の育成に欠かせない力のこと。

●フィルタリング

インターネットにおいて、未成年者の違法・有害なウェブサイトへのアクセスを制限し、安心して利用するための手助けをする機能のこと。



は行

●フィードバック

行動や成果に対する評価内容を伝え、より良い結果へ導くための手法のこと。

●ブラッシュアップ

練り上げる、磨きをかけるの意味で、現在以上の質にしていくこと。

●ペアレント・トレーニング

こどもとのより良い関わり方を学びながら、日常の子育ての困りごとを解消し、楽しく子育てができるように支援する保護者向けのプログラムのこと。

ま行

●マイノリティ

社会的少数者のこと。

●メディア・リテラシー

メディアを通じた情報を使いこなす能力のこと。

や行

●ヤングケアラー

家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められるこども・若者のこと。

ら行

●レスパイト

一時的中断、休息、息抜きのこと。

●ロールプレイ

問題解決のために、実際の場面を想定し、参加者が役割を演じ、その疑似体験を通して適切に対応する方法を学ぶ手法のこと。

わ行

●ワーク・ライフ・バランス

国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方を選択・実現できること。

A

●AI

人工的につくられた人間のような知能またはこれをつくる技術。また、これらの機能を備えたコンピューターシステムのこと。

D

●DV

Domestic Violence(ドメスティックバイオレンス)の略。日本では「配偶者や恋人など親密な関係にある、またはあった者から振るわれる暴力」という意味で使用されることが多い。

E

●ESD

Education for Sustainable Developmentの略。持続可能な開発のための教育のこと。

世界には気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等人類の開発活動に起因する様々な問題があり、これらの現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組む(think globally, act locally)ことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動のこと。

I

●ICT

Information and Communication Technology(情報通信技術)の略。通信技術を活用したコミュニケーションを指す。情報処理だけでなく、インターネットのような通信技術を利用した産業やサービスなどの総称。

●IoT

Internet of Thingsの略。モノのインターネットのこと。従来インターネットに接続されていなかった様々なモノ(センサー機器、駆動装置、建物、車、電子機器など)が、ネットワークを通じてサーバーやクラウドサービスに接続され、相互に情報交換をする仕組み。



S

●SNS

Social Networking Service(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の略。インターネット上で人と人をつなげるサービスのこと。

●Society5.0

日本が目指すべき未来社会の姿であり、持続可能性と強靭性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せを実現できる社会とされている。



四日市市こども計画

発行：四日市市 発行年月：令和7年3月
編集：四日市市こども未来部 こども未来課
〒510-0085 三重県四日市市諏訪町2番2号
TEL:059-354-8038 FAX:059-354-8061

